

## 今週のメニュー

### [トピックス](#)

2010年 建築・建材展

### [随想](#)

オックスフォード便り（その5） - オックスフォードの社交の伝統 -

関東学院大学 織 朱實

### [編集後記](#)

## トピックス

### 2010年 建築・建材展

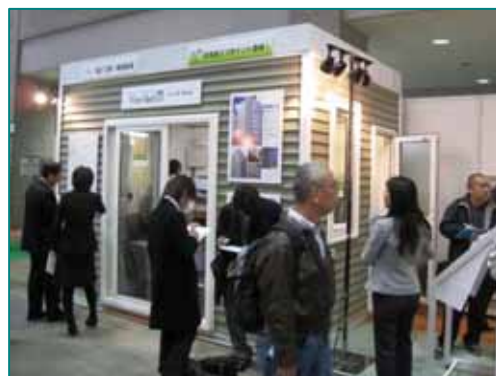
3月9日(火)～12日(金)まで東京ビックサイトで建築・建材展が開催されました。開催中は、雨と真冬並みの気温で来客数が心配されましたが、4日間で前年と同程度の約13万人の方が会場に足を運ばれ、当ブースにも人が絶え間なく来場され、3コマの展示スペースは常ににぎやかで、約2,500人の方にご覧頂きました。

建築・建材展においては、新しい素材やデザインを求めて設計事務所や工事業者の方が、お客様に少しでもよい提案をして仕事につなげようと来場されているようです。

今回の当協会の展示は、3月8日から始動した住宅版エコポイントを前面に据え、キャッチコピーを「窓で減らそう CO2」「長持ちさせよう大事な住まい」とし、窓と外壁から国のかかえる課題解決の提案をさせて頂きました。

今回で6回目の展示となる塩ビハウス「Vien Pod」を中心に、窓に関しては住宅版エコポイントとの関わりや、実際の家屋で内窓の設置前後に測定された室内外温度データのパネル展示や、そのデータを使って内窓の効果について放映されたテレビ番組のVTRなどをご覧頂くことにより、塩ビ建材の普及活動を行いました。

会期前には、来場者が当ブースに来て頂けるか大変不安でしたが、蓋を開けてみれば連日の大賑わいで、機能性に優れた新しい素材を求めていることを大いに感じました。また、現在大きな話題となって



塩ビミニハウス (Vien Pod)



窓・サイディング展示コーナー

いる「住宅版エコポイント」をキーワードに展示を行っているブースも無く、「住宅版エコポイント」を前面に打ち出した当ブースはかなり目立ったようです。

来場者の方たちから頂いた質問や感じたことは、以下の通りです。

1. 住宅版エコポイントについての認知度はかなり高いが、実際の内容については浸透しておらず、真剣に耳を傾ける方が多かった。
2. 塩ビミニハウス（Vien Pod）に関心を持たれた方が多かった。
3. 実際の樹脂の内窓や外窓を見るのが初めての方が多く、触ったり横から眺めたりという方が沢山おられた。

サイディングに関しては、「防火認定」「色バリエーション」「普及エリア」「価格」についての質問を多く頂いた。

また、今回実施したアンケート結果よりまとめると、下記のように推測できます。

### 1. Vien Pod :

約8割以上の方が興味を示した。価格を調べ、内容を充実させれば商品化の可能性も。

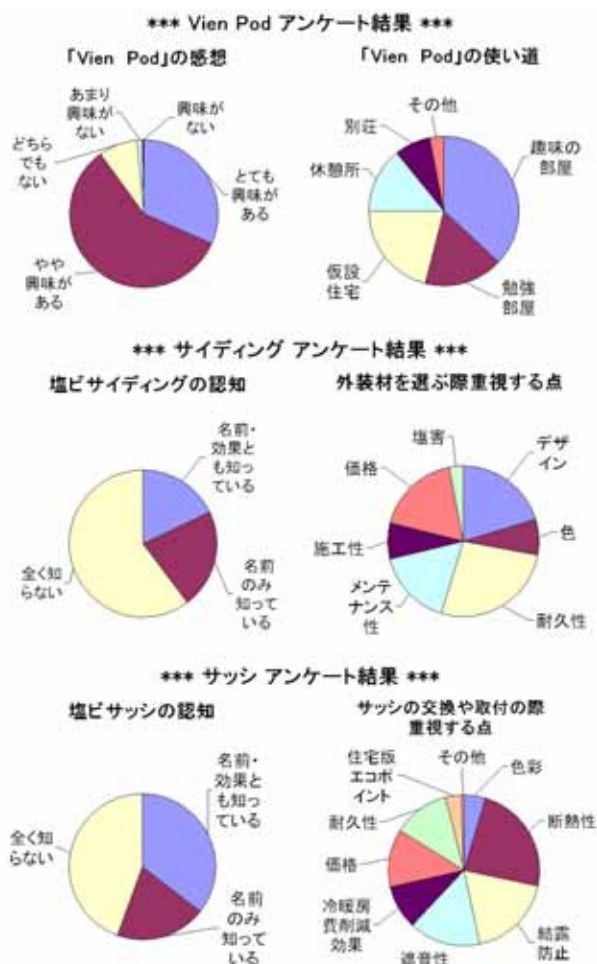
### 2. サイディング :

認知度は約4割。その内の約半分の方が効果も知っている。何らかの形で広報が必要である。又、デザインより耐久性やメンテナンス性を優先する方が多いということは、選ばれる可能性は高い。

### 3. サッシ :

住宅版エコポイントがメディアを通じて発信されていることもあり、約6割の方が知っていて、さらに、断熱性・結露防止・遮音性・耐久性などのサッシの特長を知っている方は3割強。エコポイントを使って、これから導入を検討したいという方は約8割。

今回の展示会は廃棄物をできるだけ出さないよう、シンプルなブース設営であったにも関わらず、多くの方に来場して頂き、大成功だったと思っています。



(了)

オックスフォード便り（その5） - オックスフォードの社交の伝統 -

関東学院大学 織 朱實

3月に入ってようやくオックスフォードも温かくなり、オックスフォードキャナルの周りにはクロッカス、水仙が咲き始めてきました。こちらでは、まず1月にスノードロップスが咲き、少し寒さが緩んできたな、と思ったらクロッカスが、そして3月に入ると水仙がによきよによきネギ坊主のように伸びてきます。それと同時に、先日始まったと思った学期もう終了です！



オックスフォードの学期は、3学期制になっていて、Hillary Term、Trinity Term、Michaelmas Term の3つで、それぞれ2010年は、1月17日～3月13日、4月25日～7月19日、10月11日～12月5日。日本の大学と違って「休みが長すぎる！」と思うのですが、学期中かなりの講義や宿題があり、学生は大変そうです。そうした中でも、ボート大会、ダンスパーティ、寮長選挙等様々なイベントを入れ込んで学生生活を楽しんでいるのは、さすが！というべきでしょう。



学生の勉強が大変になる一つが、tutorial という制度。先生と一対一（多くて三名）で、選択したテーマのエッセイ（論文）を指導してもらうというもの。週一回1時間（1時間で終わらず2時間近くになってしまう先生もいます）ですが、文章そのものをしっかりチェックするというよりは、「どう話すか」が重視されています。先生に対して、自分の論文の論理、構成、テーマ、ポイントをしっかり説明する。それに対して先生が、質問をして、またそれに答える。なにしろ超一流の先生、勉強不足だったり、詰めが甘かったりするとたちまち突っ込まれます。この突っ込みや質問を受けながら、「自分で考える」習慣を身につけるといふものです。「書くこと」や「書いたもの」が重視される日本とは大部違います。Tutorial の1時間、学生は論文に書き込んだり、メモをとることよりも、先生の顔を見て話すことに集中しています（日本の授業では、ゼミでも書くことに集中しているのでこれもかなり異なっています）。

こんな「会話」重視のスタイルなので、教室で堅苦しくというのではなく、先生によっては庭のベンチであったり、空き教室であったり、時には先生のお家であったりと場所も様々です。また、テーマもその先生に近いものですが、学生の興味に応じて様々で（たとえば、「英国における殺人事件の変遷」というテーマの学生もいました！）、どの分野でもオールマイティに対応できる超一流の教授陣に、家庭教師をしてもらえるというのは、凄い贅沢ですね。

ここで培われた「会話力」がオックスフォード生活の重要な位置を占める「社交」での大切な戦力になってきます。オックスフォード生活でどれくらい「会話力」が必要か、ひとつの例が、オックスフォード名物「High table」。私も、先日参加しましたが、教員はおなじみの黒いガウンを着用し、まずタワールームで軽い食前酒を楽しみます。給仕さんが呼びに来てくれると、全員でダイニングルームまで下りていきます。それを学生（学生も友人や両親などゲストを招待することが可能）が、立ち上がり、ラテン語の祝辞を述べながらお迎え。先生とそのゲストが着席するとメインの先生がテーブルの木槌を打ち、これが合図となり、食事がサーブされます。私の所属するカレッジは、かなり食事が美味しいのですが（デザートも！）、特筆すべきはワインの充実度。各カレッジはそれぞれワインセラーをもっていて、ワイン委員会の先生が管理をしています。この委員の先生の舌に、そのカレッジが美味しいワインを廉価で夕食時に楽しむことができるかがかかっているわけです。



さて、メインコースが終了すると、先生方は隣の部屋で、フルーツ、甘いワイン、そして嗅ぎ煙草（煙草の匂いを嗅いで回します。ヴィクトリア時代からの儀式で今ではオックスフォード・ケンブリッジのハイテーブルでしか残っていないとか？）、ダイニングルームに次いで、このデザート室でも、席順が決まっています。メインダイニングでは自分の招待したゲストと隣り合わせ、デザート室では別の人と隣り合うようにセッティングされています（食事の最初に席次が見せられます）。

食事が進むごとに、会話をする相手が変わり、様々な話題に興じられるシステムになっているのです。学期中、毎週金曜日、こうした正式な夕食会が開催されます。

こうやって紹介すると、いかに英国の社交として「会話」が重要視されているかわかると思います。日本人にとっては、この社交の場に飛び込んでいくのが（もちろん語学の問題もありますが）なかなかハードルが高いです。専門分野ならともかく様々な分野のスペシャリストとの会話を3時間もたせるというのは、かなり大変です（英国ならではの無難な話題として、お天気と不動産、庭づくりというのがありますが、毎回これというわけにもいかず）。英国社会で、上に行くためには「社交」が不可欠だからこそ、オックスフォードの学生は、学生生活を通じて「社交」の基本となる「会話力」を徹底的に訓練されてい

るのですね。国際会議等で日本人が本当の意味でネットワークを広げるためには、こうした「会話力」が必要になってくるのでしょうか、「会話を通じた社交」が文化として何百年も形成されてきた世界と異なるので、なかなか一朝一夕というわけにはいかなさそうです。  
(つづく)

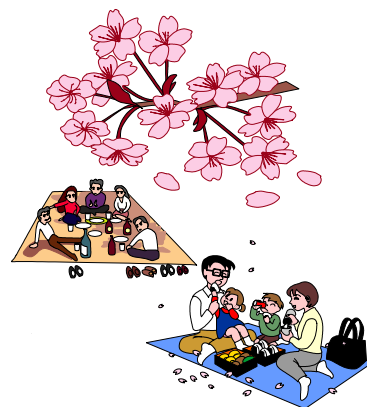
前回の「オックスフォード便り(その4)」は、下記からご覧頂けます。

[http://www.vec.gr.jp/mag/260/mag\\_260.pdf](http://www.vec.gr.jp/mag/260/mag_260.pdf)

## 編集後記

春とは言え未だ肌寒い日が続いています。先日、有名な上野の桜を初めて見てきました。噂に違わず見事なものでした。桜は勿論ですが、大変な人出でした。そぞろ歩きの人、写真を撮る人、でも多くの方が花より団子で大いに楽しんでいました。

ところで、今日は4月1日です。エイプリルフールでもありますが、官公庁・学校はじめ殆どの企業・団体の年度始まりです。多くの方々が決意も新たにしている事でしょう。我々編集部も同様です。皆さまの尚一層のご協力・ご支援宜しくお願いいたします。(英)



## 関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)